

第1回福祉部会 主な意見

●地域での高齢者等の見守り

- ・足腰が弱ったお年寄りを助けたいが、声を掛けても遠慮して頼ってもらえない
- ・災害時要援護者をどのように避難させるかが課題。
- ・団地の場合、引きこもりがちの方の様子を把握するのが難しい。住民の入替わりで地域との繋がりの無い人もでてきている。
⇒困り事をサポートしたらポイントが貯まる“おたがいさまサポーター事業”。いまはゴミ出しが対象だが、対象となる活動を広げることも検討中。
⇒高齢者の安否確認の場、社交場として「すこやかリビング」（幸校区）。週3回の訪問、週1回の食事会（登録者）など。地域の幼稚園からも児童が遊びに来ている。
⇒北部総合福祉会館ではサロン活動、カラオケ、囲碁・将棋等。風呂は週3回（高齢者）
- ・たまり場づくりも大切だが、参加者の人間関係での引きこもりもある。訪問活動も大切。

●福祉活動の連携、情報の共有

- ・北部総合福祉会館の活動は地域の参加が少ない。情報が伝わっていないと感じる。
- ・デイハウスを運営しているが利用者に偏りがある。もっと色々な方に来てもらいたい。
- ・地域には福祉の資源があり、それぞれ活動も頑張っている。ただ、それぞれがバラバラに実施しているので、うまくネットワークして連携できるようにできれば。
- ・それぞれの取組み・情報をつなげる、リーダー（タワーの上から眺めている人）が必要。
- ・コミュニティづくりを柱とし、様々な地域の活動の連携をはかることが大事。

●活動を支える人づくり

- ・福祉活動を活発にするには、地域ボランティアが重要だが、数が不足。人づくりも必要。

●コミュニティを軸にした施設・住宅のあり方

- ・集会所がない地区もある。限られた資源を地域全体で有効に使うことが必要
- ・施設を考えるには高齢者の日頃の行動、よく行く場所の把握も重要
- ・集会所や住宅、どのような単位でコミュニティをつくと良いか検討
- ・高齢者は足腰が弱い。フロア毎に横の繋がりを大切にするコミュニティづくりが必要
- ・公共施設の存廃方針や活用方針がないと、まちづくりの話は進めにくい